

## まえがき

平成14年度に行われた本校の研究の中から、この度5人の個人研究と行事検討委員会の報告、それに各学年の総合学習の取り組みの7編を研究紀要第32集としてまとめましたので、ここにご報告します。

一昨年のお阪教育大学附属池田小学校の事件や今年6月に起った長崎の幼児殺害事件など、学校現場や学校関係者を巻き込む悲惨な事件が相次ぎました。私たち教育に携わる者にとって、生徒の安全確保とともに、生徒に生命の大切さ・人権尊重の大切さを指導することが大きな責務であり課題であると、身の引き締まる思いでいっぱいです。

今回ご報告する研究は、個人研究と委員会報告、学年報告の3本の柱からなっています。個人研究では、教科指導を基本にした研究と、教師自らの研究テーマに関わる実践報告が5件あります。生徒の創造性・独創性の涵養という、これからのわが国の教育にとって非常に大切な能力の育成に関わる芸術科の実践、左謝法というマイナーな立場にある人に視点をのいた弓道における実践、ダンス学習を通して学習者の意識の変容にせまるジェンダー研究の実践、さらには、英語のコミュニケーション能力の向上を旨としたスピーキングテストの実践、そして、情報化時代、学校と家庭とを結ぶ可能性を試みたメールマガジンによる学級通信の発行です。これらの実践報告は、いずれも、人権やジェンダー、情報化など、今日の教育が当面する重要な課題に深く関わるものです。また、行事検討委員会の報告は、週休2日制になり、学校行事の再検討が余儀なくされている中で、宿泊行事の場所の変更を通して学校行事のありかたについて報告したものです。また、各学年による総合学習の実践報告と年間の総合カリキュラムを掲載してあります。

皆様方の率直なご批判とご指導をいただき、今後の研究のいっそうの充実を図りたいと願っています。

平成15年7月

お茶の水女子大学附属中学校校長  
小川 昭二郎